

所有表現 NP₂ of NP₁ の容認性

白 谷 敦 彦

0. 序

本論文は次のような、NP₂ of NP₁ という構造を有する所有表現を取り扱う。

- (1) a. the brother of Mary (Hawkins 1981: 253)
b. ?the car of Mary (Hawkins 1981: 254)
c. *the landlady of Mary (Hawkins 1981: 254)

私は白谷 (2000) で、Hawkins (1981) による ?the car of Mary, *the landlady of Mary の容認性の判断を鵜呑みにし、これらの容認性の低さは認知意味論の枠組みの中の Langacker (1992) によるアプローチを用いてきれいに説明できるとした。しかし、その後 ?the car of Mary や *the landlady of Mary に非常に類似した表現で容認される例が存在することがわかった。それらは Langacker (1992) のアプローチでは説明することができない。本論文では以上のような言語事象を指摘し、それらを認知意味論の枠内で説明するために Langacker (1992) のアプローチを修正することを提案する。¹

1. 問題の所在

認知意味論は NP_2 of NP_1 という表現を「全体 (NP_1) と部分 (NP_2)」ということで説明する。Langacker (1992: 487) は、前置詞 of のプロトタイプは「全体 (NP_1) と部分 (NP_2)」という関係を表すものであり、 NP_2 of NP_1 表現は NP_1 と NP_2 の関係を「全体と部分」という観点から探ってゆき解釈がなされるとしている。このような考え方をとれば (1a) の the brother of Mary は次のように説明できる。Mary と the brother の関係を考えれば Mary から枝分かれした家系図のようなものが思い浮かぶ。そうすると Mary の持つ枝分かれ図のうちのひとつに the brother が存在するというイメージを描くことが可能である。The brother は Mary の持つ家系の 1 つという解釈が成り立つ。これに対し、(1b) の *the car of Mary は、Mary が全体を表し car がその一部であると認識することはできないので容認されないことになる。(1b) と同様、(1c) の *the landlady of Mary も landlady が Mary の一部であるとは考えられない。借り手と家主という関係では「全体と部分」という関係は成り立たない。Landlady は人間関係ではなく契約上の人間同士のつながりであるから、血縁関係に見られるような図のイメージを抱くことはできない。このように認知意味論は (1b) と (1c) を容認性が低いと予測する。しかし次の例を参照いただきたい。

(2) Noriega loyalists opened fire on **the car of newly installed First Vice President Ricardo Arias Calderon**. . . . (Time 1 Jan. 1990: 24)

(3) That gun was stolen from **the car of a campus police officer**. . . . (Time 9 Mar. 1992: 22)

(4) he helped extract **the car of a Western journalist** mired in a bog. . . . (Time 15 Apr. 1991: 18)

- (5) a crowd of Chicago retirees mobbed **the car of Dan Rostenkowski**, chairman of the House Ways and Means Committee.
(*Time* 29 Oct. 1990: 40)
- (6) Tony sprayed a swastika on **the car of Saul Shaw**, a 79-year-old Jew who lives a few blocks away.
(*Time* 29 Oct. 1990: 27)
- (7) police found a detailed list of extortion victims in **the car of a Tiny Rascals leader**.
(*Time* 18 Nov. 1991: 103)
- (8) Palestinian gunmen shot up **the car of a leader of Jewish settlers**. . . .
(*Time* 22 Nov. 1993: 15)

これらの例は (1b) の例に酷似しており、NP₂ of NP₁ の NP₁ の部分に人間が来ている。NP₂ of NP₁ に「全体 (NP₁) と部分 (NP₂)」という関係は成り立っていない。また、以下の例は (1c) の例に酷似しており、NP₁ の部分に固有名詞や契約上の人間が来ている。NP₂ of NP₁ に「全体 (NP₁) と部分 (NP₂)」という関係は成り立っていない。²

- (9) the landlady of the Duke of Wellington
(BNC-world¥Texts¥H¥HT¥HTL)
- (10) the landlady of his Goswell Street lodgings
(BNC-world¥Texts¥B¥B0¥B0Y)
- (11) the landlady of Hartlepool's Touchdown pub
(BNC-world¥Texts¥K¥K4¥K4W)
- (12) the landlady of Nevilles Cross Hotel
(BNC-world¥Texts¥K¥K5¥K54)
- (13) He becomes **the client of a bodacious middle-aged woman defense attorney** by overhearing a gabby. . . .
(*Time* 8 Mar. 1993: 73)

- (14) The Syrian President had long been **a client of the Soviet Union**. . . .
(*Time* 29 July 1991: 29)
- (15) he is heeding **the counsel of friends and his wife Jackie** to stay out of
it. (*Time* 5 Feb. 1990: 19)
- (16) Paul Howland, **counsel of Harry M. Daugherty**, stepped forward.
(*Time* 23 June 1924: 24 Election: Republicans: At Cleveland)
- (17) All week Clinton wrestled with the conflicting advice offered by his
foreign-policy makers, themselves divided between **the go-slow
counsel of Christopher** and Joint Chiefs Chairman Colin Powell and
the more robust preferences of Defense Secretary Les Aspin and
National Security Adviser Anthony Lake. (*Time* 3 May 1993: 48)
- (18) She stirred resentment by ignoring **the counsel of other black leaders**
and the policies of antiapartheid organizations.
(*Time* 27 Feb. 1989: 36)

Hawkins (1981) の (1b) (1c) の容認性の判断には異議を唱えざるを得ない。
また、また (2)-(18) を「全体 (NP₁) と部分 (NP₂)」という関係で説明する
ことはできない。さらに次の例を見よう。

- (19) a. the love of God (Taylor 1996: 254)
b. love of the children (Taylor 1996: 249)
- (20) a. the boredom of the students (Taylor 1996: 254)
b. the boredom of the lecture (Taylor 1996: 254)

(19a) は神が人間を愛することという解釈、(19b) は子供に対する愛情という
解釈がなされる。(20a) は学生が抱く退屈さ、(20b) は講義に対する退屈と

いう解釈がなされる。Langacker (1992) はこの言語現象の解釈過程を「全体 (NP₁) と部分 (NP₂)」という概念を用いて次のように説明する。(19a) については、God が「全体」であるから、God に[●]と[●]ってのことという全体集合の中で love に関連すること (部分) を考えると、全体集合の中から「神 (God) が人間を愛すること (love)」ということが思い描かれる。(19b) については、children が「全体」であるから、children に[●]と[●]ってのことという全体集合の中で love に関連すること (部分) を考えると、全体集合の中から「人間が子供 (children) を愛すること (love)」ということが思い描かれる。(20) も同様の説明がなされるわけだが、「全体と部分」ということで説明するよりも、Langacker (1992) は上の説明のように of に「～にとって」という意味を認めているのであるから、プロトタイプの意味からどのようにして「～にとって」という意味が生じてくるのかを明らかにする方が説明力が増すのではないだろうか。

2. 前置詞 of の意味のネットワーク

Langacker (1992: 487) は前置詞 of の持つ一つの意味 (sense) をプロトタイプと設定し、それ 1 つで前置詞 of の持つすべての意味を結び付け説明しようとしているが、第 1 節で見たように、それには無理が生じてくる。前置詞 of のような多義語を扱う場合、有益な示唆を与えてくれるのが Lakoff (1987) による前置詞 over についての研究である。Lakoff (1987) は、over のような数多くの意味 (sense) を有する多義語については、中心となる意味 (プロトタイプ) があってそこから別の意味が派生し、その別の意味からさらに別の意味が派生することがあると考える。Lakoff (1987) の示した前置詞 over の意味のネットワークをみてみよう。意味に番号をつけ円で示した。該当する例文は図の後にまとめている。

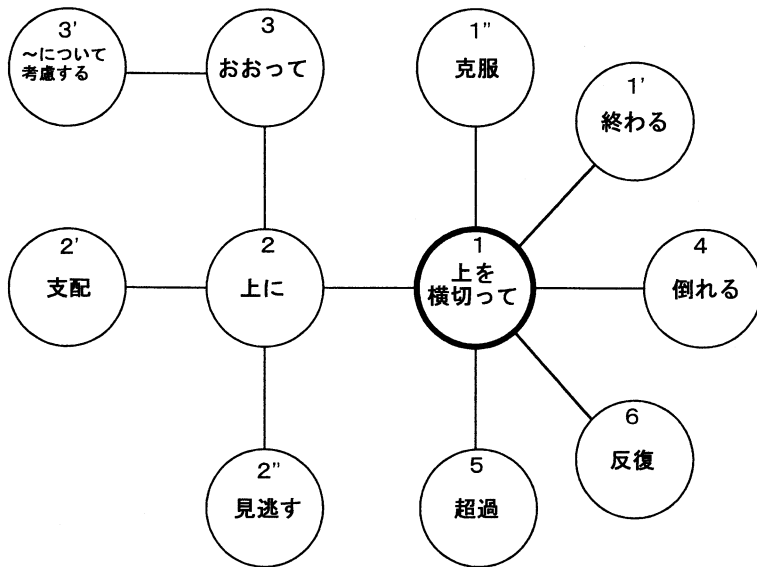


図1 Lakoff (1987) による over の意味のネットワーク

1 「上を横切って」という意味

例文：The plane flew over the hill.

Sam lives over the hill.

1' 「終わる」という意味

例文：The play is over.

1'' 「克服」という意味

例文：Harry still hasn't gotten over his divorce.

2 「上に」という意味

例文：Hang the painting over the fireplace.

2' 「支配」という意味

例文：She has a strange power over me.

2 "「見逃す」という意味

例文：Don't overlook any of my corrections.

3 「おおって」という意味

例文：The city clouded over.

The board is over the hole.

3' 「～について考慮する」という意味

例文：Look over my corrections.

4 「倒れる」という意味

例文：The fence fell over.

5 「超過」という意味

例文：The bathtub overflowed.

6 「反復」という意味

例文：Do it over.

それぞれの円が意味を表し、太い円が中心的意味、つまりプロトタイプである。Lakoff (1987) は、プロトタイプは「上を横切って」という意味だと考える。その意味から「横切って」という要素が薄れたものが、「上に」という意味(円の2)である。この「上に」という意味からメタファーにより「支配」(円の2')。力的に上というメタファー) という意味が生じる。また、眼差しが訂正箇所 (my corrections) の「上を横切って」行くというメタファーから「見逃す」という意味(円の2") が生じる。次に円の3の「おおって」という意味が派生する過程についてであるが、上にあるものが下にあるものよりも大きければ「おおって」というイメージが強くなるため、この意味が派生する。この「おおって」という意味から「～について考慮する」という意味(円の3') が派生する過程は次のようなものである。例文 look over my corrections では視線が訂正箇所をじっくりと見据えて何度も通っている、つまり視線が訂

正箇所をおおっているというイメージである。次に円4の「倒れる」という意味についてであるが、例文 *the fence fell over* では落ちてゆくフェンスの軌跡がフェンスの下にある物体の上を横切っているというイメージであるからプロトタイプ（円の1）から生じる。円5の「超過」という意味は、例文 *the bathtub overflowed* は浴槽の側面を越えて出てゆく水がその上を横切っているのでプロトタイプ（円の1）から生じる。円6の「反復」という意味は、例文 *do it over* は繰り返すという行為が対象の上を横切っているというイメージであるからプロトタイプ（円の1）から生じる。「上を横切って」というプロトタイプは、「上を横切って行ってしまう」、つまり、過ぎ去ることへもつながるので「終わる」という意味（円の1'）や「克服」という意味（円の1"）も生じ得る。

以上が Lakoff (1987) の示した *over* の意味のネットワークである。それでは、Lakoff (1987) の研究手法にならって前置詞 *of* の意味のネットワークを構築しよう。まず *of* の持つ意味を挙げる。

①「離れて」という意味

例文：He robbed her of money.

②「出所」という意味

例文：He comes of a good family.

the wines of France

You expect much of her.

ask a favor of him

③「(全体)の(部分)」という意味

例文：some of them

a third of them

a glass of water

④ 「材料」という意味

例文：The desk is made of wood.

⑤ 「根拠・原因」という意味

例文：He died of cancer.

⑥ 「同格」という意味

例文：all of them

two of us

the name of John

⑦ 「所有」という意味

例文：a friend of mine

the leg of the table

⑧ 「～にとって」という意味

例文：the love of God (God が動作主)

the love of children (children が被動作主)

⑨ 「性質」という意味

例文：a man of courage

⑩ 「～について」という意味

例文：a book of birds

think of you

Lakoff (1987) の手法にならってこれらの意味を結びつけよう。Langacker (1992) は of のプロトタイプ、つまり中心的意味は「部分と全体」とするが、歴史的見地からすると、小西 (1955: 3) の指摘する of の原義「分離」を中心に意味だとしてとらえる方が妥当だと思われる。「分離」、つまり「離れて」という意味から様々な意味が派生していると考えれば次のようにうまく of の持つ多くの意味を関連づけてとらえることができる。①の例文 He robbed her of

money. は her が money から離れることを表している。あるところから離れるという意味から、どこどこから出てきた、そしてどこどこが出所である、というように意味が広がって行き、②の「出所」という意味が生まれる。その「出所」という意味から④の「材料」、⑤の「根拠、原因」という意味が生じることは想像に難くないであろう。中心的意味の「離れて」ということから、A が B から離れると考えると、A は B の部分集合である。従って A of B で、B (全体) の A (部分) という③の意味が生まれる。この③の意味から⑥の意味への派生は次のようになる。部分と全体を表す A of B のうちで all of them となる関係もある。その場合、A of B は A=B であり、A と B は等しいものとなる。そこから同格の意味が生まれる。次に、③から⑦への意味の変化をみよう。例 the leg of the table は③の意味では、テーブルの一部としての足という意味であるが、これは同時にテーブルに属するものとしての足という見方もできる。プロファイルされる(最も意識される)ものの変化による見方の変化である(イメージ・スキーマ変換と称される。以下もこのイメージ・スキーマ変換が関与する)。その見方をすると、③の意味は⑦の「所有」という意味へと変わる。また、所有という⑦の意味から⑨の意味が派生する。例 a man of courage は、courage という性質に属する、つまり courage という性質にあてはまる人ということで「勇気のある人」という意味になり、⑨の「性質」という意味が表されることになる。先の⑦の例の the leg of the table は、「テーブルに属する足」という意味であったが、これを「テーブルにとっての足」というようにも発想は転換できる。そうすると、⑧の the love of God が「神にとっての愛」であるということと通じる。「神にとっての愛」は神が我々を愛するということになる。また、the love of children 「子供にとっての愛」とは、子供が愛されることということになる。その「子供にとっての愛」は「子供についての愛」という意味に転換できる。従って、⑧の「～にとって」という意味から⑩の「～について」という意味が生じる。以上の考察を図式化しよ

う。³ それぞれの円が意味①～⑩を表し、太い円が中心的意味、つまりプロトタイプである。

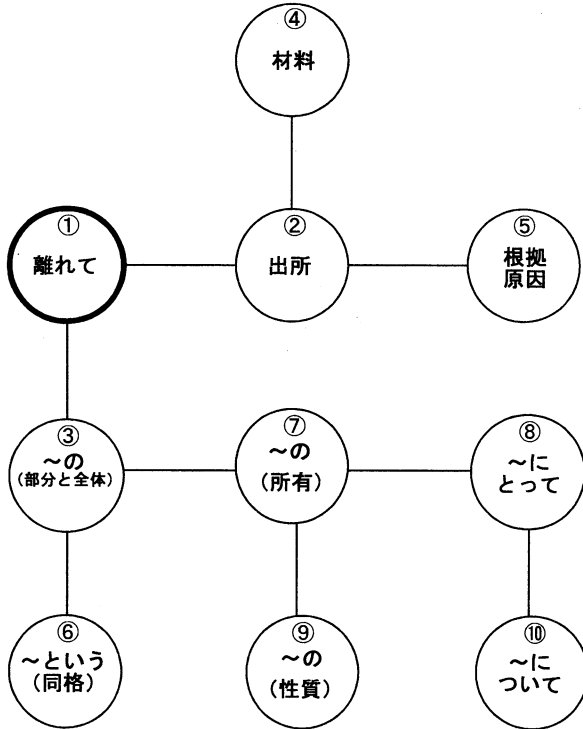


図2 ofの意味のネットワーク

このように意味のネットワークを考えれば、(1)-(18)は⑦の「所有」という意味で説明され、(19)(20)は⑧で説明されることになる。Langacker (1992) のようにofの持つ意味のすべてを、「部分と全体」という一つの意味から説明するのではなく、Lakoff (1987) のような意味のネットワークを考え、各意味に適用していくのがよいと思われる。

3. 結 論

本論文は NP_2 of NP_1 という構造を有する所有表現を取り扱い、実際に使われている例を検討し、容認性についての言語観察の正確化を図った。また、この構造で現れる例を前置詞ofの一つの意味「全体と部分」(Langacker (1992) はこれをプロトタイプとした) だけで説明することは困難であることを示し、意味のネットワークを作成し (プロトタイプも変更した)、それによって説明することを提案した。

注

1. 白谷 (2000) では「部分と全体」という関係が成り立っているにもかかわらず NP_2 of NP_1 という表現形式が容認されない言語事象を取り扱った。例えば the leg of the table という表現は容認されるのに、?the leg of the man では容認性が低くなり、*the leg of him では容認されなくなるという言語現象である。この現象を認知意味論の枠内で説明することを可能にするために Langacker (1992) の理論に一定の使用条件を組み込むことを提案した。今回の論文では Langacker (1992) の理論に新たに修正を加えることを提案するわけであるが、白谷 (2000) で提案した使用条件は今回の新たな修正によって影響を受けることなくそのまま残る。
2. BNC-world と記した例は British National Corpus World Edition (CD-ROM) からのものである。British National Corpus World Edition (CD-ROM) は、1億語のイギリス英語の書き言葉 (90%) と話し言葉 (10%) の品詞標識付きコーパスであり、大半は 1990 年代のテキストである。

3. ここでのネットワークの作成にあたっては本文中にも言及したように、over のネットワークを示した Lakoff (1987) のアプローチの仕方を手本とした。多義語の持つ多くの意味 (sense) の関係を念頭にプロトタイプを探り、意味の派生を考え、意味の関連づけを再度検討しプロトタイプの設定の正否を検証するというものである。これには根拠がないという批判もあるであろう。実際に歴史的にそのような意味の変化があったかどうかははっきりしないからである。多義語が歴史的にどのように意味を拡大していったかという事実を裏付けとすることがこのような研究の今後の課題となるであろう。

主要参考文献

- Brugman, Claudia. 1988. *The Story of 'Over': Polysemy, Semantics, and the Structure of the Lexicon*. New York: Garland.
- Hawkins, Roger. 1981. "Towards an Account of the Possessive Constructions: NP's N and the N of NP." *Journal of Linguistics* 17: 247-269.
- 小西友七. 1955. 『前置詞 (下)』 東京: 研究社出版.
- Lakoff, George. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal About the Mind*. Chicago: University of Chicago Press. [ジョージ・レイコフ (池上嘉彦, 河上誓作ほか訳). 1993. 『認知意味論』 東京: 紀伊国屋書店.]
- Langacker, Ronald W. 1992. "The Symbolic Nature of Cognitive Grammar: The Meaning of *of* and *of*-periphrasis." *Thirty Years of Linguistic Evolution: Studies in Honour of René Dirven on the Occasion of his Sixtieth Birthday*. Ed. M. Pütz. Amsterdam: Benjamins. 483-502.
- Langacker, Ronald W. 1995. "Possession and Possessive Constructions."

Language and Cognitive Construal of the World. Ed. J. Taylor and R. MacLaury. Berlin: Mouton de Gruyter. 51-79.

白谷敦彦. 2000. 「A's BとB of A—認知意味論の立場から—」『福岡大学 人文論叢』32. 4: 2459-2471.

Taylor, John R. 1996. *Possessives in English: An Exploration in Cognitive Grammar*. Oxford: Clarendon Press.